



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月8日

上場会社名 株式会社ミダックホールディングス 上場取引所 東 名
コード番号 6564 URL <https://www.midac.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 恵子
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 高田 廣明 TEL 053-488-7173
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	2,704	1.3	1,151	△0.9	1,116	△2.2	697	△3.7
2025年3月期第1四半期	2,669	25.1	1,162	40.4	1,141	40.6	724	45.1

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 698百万円 (△3.6%) 2025年3月期第1四半期 724百万円 (45.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	25.23	25.22
2025年3月期第1四半期	26.20	26.20

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	33,000	15,768	47.7
2025年3月期	28,492	15,452	54.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 15,729百万円 2025年3月期 15,413百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	0.00	—	18.00	18.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	5,547	7.8	2,020	5.7	1,974	6.2	1,188	0.8	42.98
通期	11,617	6.5	4,792	5.7	4,700	5.6	2,930	2.4	105.96

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 （社名）大平興産株式会社

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期1Q	27,773,500株	2025年3月期	27,773,500株
2026年3月期1Q	114,722株	2025年3月期	115,322株
2026年3月期1Q	27,658,573株	2025年3月期1Q	27,658,179株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(会計方針の変更に関する注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8
(企業結合等関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善によって景気は緩やかな回復基調であるものの、米国のトランプ政権による関税政策や中東・ウクライナでの紛争など海外情勢の混迷、エネルギー価格を含めた物価上昇の影響などにより、国内外の景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループはミダックグループ10年ビジョン『Challenge 80th』の実現に向けた第1次中期経営計画のもと、「成長加速のための基盤づくり」のため、既存事業の収益力強化に努めてまいりました。

まずオーガニックグロースにおいては、管理型最終処分場「奥山の杜クリーンセンター」を中心とした廃棄物受託量の拡大に努め、新規大口案件の受託や既存取引先との取引量の拡大により、廃棄物受託量は増加しました。また、同地域内にある管理型最終処分場「遠州クリーンセンター」及び安定型最終処分場「浜名湖クリーンセンター」につきましても、両最終処分場共に埋立容量の増量工事が完了し、供用を開始しております。

M&Aグロースについては、株式会社フレンドサニタリーにおいてスポット案件における前期からの反動減があったほか、遠州砕石株式会社においても、前期の収益向上に貢献した奥山の杜クリーンセンターの第2期～第4期工事で排出される残土の受入れが無かったことから減収となりました。また、最終処分場における戦略的M&Aの一環として、2025年4月に千葉県内で管理型最終処分場を運営する大平興産株式会社を子会社化しました。これにより、関東エリアにおける事業エリアの拡大が実現しております。なお、大平興産株式会社は当第1四半期連結会計期間末日（2025年6月30日）をみなし取得日としているため、当第1四半期連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,704百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益は1,151百万円（同0.9%減）、経常利益は1,116百万円（同2.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は697百万円（同3.7%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 廃棄物処分事業

最終処分場においては、旺盛な埋立需要を背景に最終処分場における廃棄物受託量が増加しました。また、中間処理施設においても、既存取引先からの受託量は安定的に推移しました。以上の結果、売上高は2,186百万円（同4.4%増）となり、セグメント利益は1,360百万円（同8.9%増）となりました。

② 収集運搬事業

産業廃棄物においては、取引先に対する価格転嫁を進めたものの、大口案件の減少等により、受託量は前期に比べ減少しました。一般廃棄物においては、株式会社フレンドサニタリーについては前期に比べスポット案件が減少した一方で、株式会社ミダックライナーにおいて飲食店を中心とした新規開拓に注力した結果、受託量は前期よりも増加しました。以上の結果、売上高は463百万円（同2.5%減）となり、セグメント利益は101百万円（同24.9%減）となりました。

③ 仲介管理事業

大口案件の獲得により、協力会社への仲介は好調に推移しました。以上の結果、売上高は41百万円（同23.4%増）となり、セグメント利益は29百万円（同21.1%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は8,023百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,581百万円減少しました。これは主に、現金及び預金の減少額1,503百万円等によるものであります。また、固定資産は24,977百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,089百万円増加しました。これは主に、のれんの増加額2,495百万円、建設仮勘定の増加額1,739百万円等によるものであります。

この結果、総資産は、33,000百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,507百万円増加しました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は3,724百万円となり、前連結会計年度末に比べ268百万円減少しました。これは主に、未払法人税等の減少額396百万円等によるものであります。

また、固定負債は13,506百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,459百万円増加しました。これは主に、最終処分場維持管理引当金の増加額3,387百万円、特別修繕引当金の増加額1,166百万円等によるものであります。

この結果、負債合計は、17,231百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,190百万円増加しました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は15,768百万円となり、前連結会計年度末に比べ316百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益697百万円を計上したこと等による利益剰余金の増加額310百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月15日付の「2025年3月期 決算短信」にて公表しました連結業績予想から修正はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,115,702	6,612,245
受取手形及び売掛金	1,129,335	1,008,874
棚卸資産	82,930	96,141
その他	280,222	310,680
貸倒引当金	△2,976	△4,612
流動資産合計	9,605,214	8,023,329
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	982,680	967,767
機械装置及び運搬具（純額）	810,970	793,524
最終処分場（純額）	4,683,563	5,219,134
土地	5,226,940	5,472,830
建設仮勘定	4,274,086	6,013,260
その他（純額）	78,910	73,761
有形固定資産合計	16,057,152	18,540,278
無形固定資産		
のれん	952,691	3,447,806
施設設置権	40,100	30,075
その他	126,108	119,922
無形固定資産合計	1,118,899	3,597,803
投資その他の資産		
投資有価証券	255,064	255,507
繰延税金資産	652,223	631,909
その他	804,355	1,951,800
投資その他の資産合計	1,711,644	2,839,216
固定資産合計	18,887,696	24,977,298
資産合計	28,492,911	33,000,628

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	35,475	19,279
短期借入金	1,290,000	1,290,000
1年内返済予定の長期借入金	960,522	901,580
未払法人税等	677,721	281,235
未払金	472,294	531,596
賞与引当金	148,640	73,810
その他	408,721	627,256
流動負債合計	3,993,375	3,724,758
固定負債		
社債	200,000	240,000
長期借入金	6,872,794	6,669,787
繰延税金負債	87,678	84,208
退職給付に係る負債	52,066	127,100
役員退職慰労引当金	758,000	758,000
最終処分場維持管理引当金	938,943	4,326,246
特別修繕引当金	—	1,166,869
資産除去債務	112,571	112,580
その他	25,455	22,125
固定負債合計	9,047,509	13,506,916
負債合計	13,040,885	17,231,675
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	4,923,132	4,927,325
利益剰余金	10,504,329	10,814,930
自己株式	△103,572	△103,033
株主資本合計	15,413,889	15,729,221
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△472	△205
その他の包括利益累計額合計	△472	△205
新株予約権	38,609	39,936
純資産合計	15,452,026	15,768,952
負債純資産合計	28,492,911	33,000,628

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	2,669,779	2,704,015
売上原価	933,466	923,092
売上総利益	1,736,312	1,780,922
販売費及び一般管理費	574,192	629,777
営業利益	1,162,120	1,151,144
営業外収益		
受取利息	417	1,033
不動産賃貸料	2,100	2,419
固定資産売却益	2,835	458
その他	2,511	1,816
営業外収益合計	7,864	5,727
営業外費用		
支払利息	26,804	32,826
その他	1,374	7,333
営業外費用合計	28,179	40,160
経常利益	1,141,805	1,116,710
税金等調整前四半期純利益	1,141,805	1,116,710
法人税等	417,110	418,895
四半期純利益	724,694	697,815
親会社株主に帰属する四半期純利益	724,694	697,815

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	724,694	697,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△669	267
その他の包括利益合計	△669	267
四半期包括利益	724,025	698,082
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	724,025	698,082

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	176,212千円	163,729千円
のれんの償却額	66,994	66,994

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 3	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計			
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	2,094,048	475,571	33,711	2,603,331	66,447	—	2,669,779
外部顧客への売上 高	2,094,048	475,571	33,711	2,603,331	66,447	—	2,669,779
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	81,298	2,338	8,131	91,767	351	△92,118	—
計	2,175,346	477,910	41,842	2,695,099	66,798	△92,118	2,669,779
セグメント利益	1,250,184	134,662	24,669	1,409,516	38,821	△286,217	1,162,120

(注) 1. セグメント利益の調整額△286,217千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

II 当第1四半期連結累計期間（自2025年4月1日 至2025年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 3	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計			
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	2,186,060	463,877	41,599	2,691,537	12,477	—	2,704,015
外部顧客への売上 高	2,186,060	463,877	41,599	2,691,537	12,477	—	2,704,015
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	86,060	1,998	7,927	95,985	1,465	△97,451	—
計	2,272,120	465,876	49,527	2,787,523	13,942	△97,451	2,704,015
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,360,859	101,164	29,883	1,491,906	△15,755	△325,006	1,151,144

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△325,006千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

（企業結合等関係）

（取得による企業結合）

1. 企業結合の概要

（1）被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称 大平興産株式会社

事業の内容 産業廃棄物・一般廃棄物の最終処分及び収集運搬

（2）企業結合を行った主な理由

大平興産株式会社が当社グループに加わることは、当社グループを業界屈指の総合廃棄物処理企業へ進化させるための一つの契機になるため。

（3）企業結合日

2025年4月14日

（4）企業結合の法的形式

株式取得

（5）結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

（6）取得した議決権比率

100%

（7）取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

四半期決算日をみなし取得日としているため、四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間はありません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	100,000千円
取得原価		100,000千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

（1）発生したのれん

2,562,109千円

なお、のれんは、当四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

（2）発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

（3）償却方法及び償却期間

投資効果の発現する期間で均等償却する予定であります。なお、償却期間については算定中であります。